

	<h1>跳んだり蹴ったり</h1> <p>SCE・Net 弓削 耕</p>	E—64 発行日 2014/7/24
---	---------------------------------------	--------------------------

本田のゴールで1点を先行した日本が、コートジボアールに続けさまに2ゴールを決められ、日本のワールドカップサッカー2014は終わりました。

試合前はマスコミにも散々持ち上げられ、淡い期待も抱かせられましたが、終わってみればいつもの過大な取り上げ方であったことが分かりました。いずれも日本よりランキング上位のチーム相手では、ランキング以上の結果は得られませんでした。今回のグループ8組のうち、大幅にランキングの下剋上のあったのは、コスタリカ、ナイジェリア、アメリカの3チームで、スペイン、イタリア、イングランドはランキング負けしたチームでした。ちなみに日本はランキング46位で、同じ組の相手チーム、コロンビア、ギリシャ、コートジボアールのランキングは8位、12位、23位なので、その中で2敗1分けは頑張ったともいえます。参加32チームのうちで日本よりランキングが下のチームは56、57、62位の3チームしかありません。スポーツも勝負なので運不運もあるし、弱小チームが常に負けるとは限らない面白さもあり、番狂わせということもあるので、日本もそれに期待しましたが、そうは問屋が卸しませんでした。

世界ランキングというと、経済力、学力、住みやすい場所、平均寿命、美女など種々のものがあり、中にはどうかと思われる評価もありますが、サッカーの場合はどうやって決めるのでしょうか、その評価は、割合と妥当なようです。

決勝トーナメントには、1回戦ではリーグ1位進出のチームが勝ち進みましたが、ギリシャ、ウルグアイを除いてランキング上位チームが勝ちました。準々決勝ではランキング上位チームがすべて勝ち、準決勝から決勝へ進んだのはランキング上位のドイツとアルゼンチンでした。決勝の2チームは実力に大きな差はないようでしたが、ランキング上位で運動量と組織力のドイツが勝ちました。

今回のワールドカップは日本人主審のホイッスルが鳴って始まりました。ちなみにホイッスルは殆どが日本製だそうです。試合は日本時間の午前に行われたので、試合当日の3日間は仕事や学業に身の入らなかった人が多かったのではないのでしょうか。熱心なサポーターは特に1日中、戦意喪失であったことでしょうか。今回の結果で、日本人の働きに活力を与えることが出来なかったのは残念であり、期待した経済効果も上がらなかったことでしょうか。

オリンピックと同じように、国を代表しての戦いとなると、愛国心に目覚めて、勝つことに主眼を置くからでしょう、何故か力が入ります。各国民の熱の入れようもオリンピックより一段と激しいようです。スポーツであればもっと楽しめば良いと思うのですが、選手、監督は止むを得ないとしても、マスコミを始め、勝負にこだわりすぎるの

で、試合の面白みに欠けるようにもなります。チームとしての競技というよりも、国と国との争いという面が強くなります。ミサイルを撃ち合う争いに比べればグランドでの戦いは、怪我があったり、喧嘩があったりはしますが、まだ平和です。世界中の争いもグランドだけに止められればという思いも出てきます。

加えて、試合応援に対する各国サポーターの熱狂は想像を絶するものです。負ければ暴動、略奪は起こるし、失敗した選手は殺されたこともあるそうです。負けて帰国する選手はひっそりと帰らないと罵声を浴びたり、物をぶつけられるようでした。その点、日本のサポーターは多くの人が静かに迎えていました。現地に出かけたサポーターは負けても騒がず、きれいにゴミの後片付けまでして、チームは1次リーグで敗退するも、サポーターは優勝という評価も得て、現地政府から表彰されました。勝負に勝てなかったのでせめてもの慰めです。このような態度は日本では当然のことですが世界では珍しいので、これからも模範になって欲しいものです。

小生はサッカーにも素人なので、監督の作戦、選手の選考や配置、動きなどについての評論はできませんが、TV画面で見る範囲でも、彼私の体力差、スピード差は圧倒的なものがあったのは否めません。10人になったギリシャ、1軍半のコロンビアには勝機の期待もありましたが淡い夢でした。日本を含め、アジア・オセアニアのチームは1勝もできませんでした。日本はこの球技に向いていないのではないかと思います。球技でも野球やバレーなどを除き、直接体力がぶつかり合うサッカー、ラグビー、アイスホッケー、バスケットなどは世界的に歯が立たない競技の世界です。

サッカーでも、男子に比べると女子の「撫子ジャパン」はたいしたものですが、世界ランキングは3位ですし、ワールドカップやアジアで優勝したり、オリンピックでも惜敗したりと大活躍ですし、その上フェアプレー賞も得ています。国内での待遇にも恵まれていない女子チームに運営や作戦を学ぶべきでしょう。国会や地方議会で女性に心無い野次を飛ばす、昔ならば良識あるといわれていた先生方は世界的に活躍する女性のことをご存じなのではないでしょうか。日本の女性が国内外で活躍するのは大変なことは容易に分かることで、付け焼刃的にちやほやするのは逆効果で、社会の認識度を上げながら、じっくりと女性の実力を社会で発揮してもらい、評価していくことが必要でしょう。男性、女性ともに各界でもっと活躍し成果を上げて欲しいものです。

日本チームの構成をみると、国際化の時代を反映し、メンバーの半数が海外のチームに所属する、いわゆる海外組で、出場選手も大部分が海外組であり、日本人選手も国際的に認められてきていることを感じますが、海外での活躍も今いちのようで、その評価が今回の結果にも現れているように感じました。作戦面は良く分かりませんが、外国チームと比べて差がある体力や走力を補うためのやり方や作戦があるのではないのでしょうか。「撫子チーム」にも海外組はいますが、チームワークは良く取れているように感じます。ナショナルチームとして、海外組を含め混成チームとして戦うには、チームが一体化する時間を十分取らないと、日本の特徴となる和の力が発揮できないのではな

いでしょうか。

サッカーのことは日本語では「蹴球」といいます。「野球」とベースボールの違いがあるように、日本のサッカーとは「蹴球」であり、世界でいうサッカーとは差があるような気がします。体力のある大男が猛烈なスピードで走ってきて、ぶつかるのものともしない、まさに格闘技です。そこにいくと日本のサッカーは「蹴球」で、日本古来の蹴鞠に起源があるようにも思え、一時よりは攻撃的になりましたが、まだ世界サッカーとの相違があるように感じます。相手チームを良く知り、それに対応する日本らしい作戦を立て実施し、組織力で相手の隙を狙って格調高く勝っていく、なかなか難しいことですが、日本独特の道があるように思います。力とスピードが勝負の団体球技は余程のことがないと世界で勝ち抜くのはハードルが高いようです。オリンピック精神で何にでも参加するのも大切ですが、日本の特性にあった競技を探して、伸ばすことも良いでしょう

オリンピックでは、人口の多い国や、いわゆる先進国の選手が多く活躍するのが見られますが、サッカーは少し違うようです。ブラジルやアルゼンチンなどサッカー王国といわれる広大な国々、オランダ、スイス、ベルギーなど国は小さいが歴史や伝統がある欧州の国が活躍しました。ドイツは面積も広くなく人口も多いというわけではありませんが、経済力があり、国力もあり、サッカーもしっかりと戦っていました。今回は地の利を得ていた中南米諸国が成績をあげましたし、ナイジェリア、アルジェリアなどのアフリカの国も頑張りました。国力から考えると日本ももう少し好結果を出しても良いのですが、サッカーの世界で日本が成績を上げるのはまだ難しいようです。

グローバル化時代ということで、スポーツ選手も海外のチームで活躍したり、武者修行する選手が多くなり、野球、サッカー、バレー（排球）、バスケット（籠球）、ラグビーと数多くの競技に日本人が参加しています。その中での活躍ぶりが頻りに報道されています。そのうちでは、野球選手が数も多いし、全ての選手が成功しているとは言えませんが、野茂投手を先駆として、イチロー、松井、ダルビッシュ、今年は田中マー君の活躍が脚光を帯びています。最近では日本で注目される結果を残すと、直ぐにアメリカに取られてしまうので、日本の野球から大スターが少なくなり寂しい気持ちになります。日本からは一流の選手がアメリカに行きますが、アメリカから一流の現役バリバリの選手が来ることは殆どなく、その面では不公平ですが、活躍の場として日本が一流とみられていないからでしょう。モンゴルの関取が横綱を独占している大相撲とは様違いです。野球でも外国と比べて、力とスピードの点では劣りますが、常に広い場所を精一杯使っていく競技ではなく、日本的な小技を使って優位に立てる面が多いようで、WBCなどで優勝することもできます。もっとも個人で活躍するのはコントロール、変化球が得意な投手や小技を利かす打撃術を持つ野手に限られるようで、期待されながらも成果を出せなかった選手も沢山いて、何故無理に挑戦するのかと首をかしげる選手もいます。産学の分野では、若者が海外に出かける人が少なくなっているといわれますが、スポーツ

の世界では、若者の進出が目立ちます。経済的なメリットも多いからでしょうか。世界的なつながりが大きくなっている時代ですから、どの分野でも海外で活躍する人が多くなっていくのは当然であるし、期待しましょう。

ワールドカップが終わると、監督の交代が話題になります。日本チームも契約切れということで交代が考えられています。サッカーは何故か外国人監督が多いようです。外国人が不適當とは言いませんが、日本人監督の人材も育てていくべきでしょうし、相応しい人もいるのではないのでしょうか。今までワールドカップで優勝したチームは全て日本人が監督をしているそうです。野球の世界でも外国人監督という例もありますが、成功例は余りないようです。サッカーも、これだけ普及してきたし、もう明治時代ではないので高い報酬でお雇い監督を採用するのは止めて、日本人が監督指導した方がよいでしょう、細かいコミュニケーションも良く取れるし、和の力も発揮しやすいのではないのでしょうか。そういえば「撫子チーム」は日本人男性が監督で、女性ではないがよく統率し成果を上げています。グローバルの時代ということで、企業のトップにも日本人以外が就任することが多くなりました。全く否定することではありませんが、全ての外国人トップが成果を上げているとは言えません。グローバルな視点で経営ができる人材を育成し、日本の会社は日本人が中心で経営し発展させていくのが肝要だと思います。経営者の報酬だけがグローバル化するのも問題でしょう。

サッカーを中心に、いろいろと世界の事を考えさせられた楽しい1か月でした。4年後には日本チームがもう少しランキングを上げ、せめて20位台に上げ、勝負では直ぐに成果を出さなくとも、フェアプレーの選手、厳正な審判、規律正しいサポーターとしてグラウンドで、スタンドで日本らしい蹴球が躍動することを平和な世界の中で期待したいと思います。



跳んだり蹴ったり